

川辺高同窓会報

母校の限りなき発展



同窓会長
前野 政 美

同窓会会員の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より同窓会運営には格別なる御支援と、御協力を賜りまして誠にありがとうございます。今後とも、会員の皆様のさらなる御指導と御協力をよろしくお願い申し上げます。

人生で最も多感な青春期の色々な思い出を語り合い、先輩・後輩のつながりを確認し合う場が同

窓会です。母校という絆で結ばれた者同志がお互いの健在を確認し、母校の現況や郷里の出来事を聞きながら、焼酎を酌み交わすのは幸せこの上ないことです。そういう意味でも、我々同窓生の思いは「母校の限りなき発展」唯一つです。

高校再編が実施されている中で、学校当局・PTAそして同窓会は必死になつて生徒募集に工夫を凝らして定員確保のために努力しております。ご存じの通り、母校の募集定員は一学年二〇〇名ですが、今年は学区内の大幅な少子化の影響によ

り入学者が四二名も減少しました。現在の一年生は四年级でスタートしています。地区内ではすでに笠沙が廃校になり、川辺・加世田・枕崎・薩南工業・加世田常潤・鹿児島水産の六校になりました。全国と同窓会員の皆様に母校存続の問題に関心を寄せていただき、何らかの形で寄与していただきたいと念願しております。

また、市町村の合併問題も現在進行中です。すでに、加世田市・大浦町・笠沙町・坊津町・金峰町は合併して南さつま市になりました。現在、川辺町・知覧町・頤娃町が合併の協議を進めておりますが、これに枕崎がどう

発行
川辺高校同窓会本部
発行所
〒897-0221
鹿児島県川辺郡川辺町田部田
TEL 0993-56-1151
FAX 0993-56-1152
県立川辺高等学校

絡んでくるかが今後の課題です。

地域活性化のためにも、学校の活性化が必要であるとの考えから、川辺町商工会も川辺高校存続のための取組みを強化しています。川辺町は学力推進委員会を設置して、児童生徒の学力向上による村おこしの取組みをしています。学校とPTAが

夢の実現へ 明日を拓く!



校長
西 元 辰 宏

川辺高校本部同窓会をはじめ各支部同窓会並びに各職場神戈陵会の御盛會と会員の皆様のますますの御活躍を心からお祝い申し上げます。同窓会の皆様には、神戈陵教育

連携すれば何とかできる。これに地域の協力があれば何とかなると考えています。会員の皆様のお力添えも是非お願い申し上げます。これらを念頭に置いて、学校にもなお一層の努力をして頂きたいと期待しております。

最後に、同窓生の皆様の御健康と御発展をお祈り申し上げます。

振興会育英奨学事業や同窓会育英奨学生事業への御寄付や、開校記念講演会や神戈陵塾の講師の派遣など、物心両面から川辺高校の活性化に変わらぬ御支援・御協力を賜りまして本当にありがとうございます。衷心より厚く御礼を申し上げます。

【高校再編整備計画】

さて、県教育委員会は、平成十五年二月の県公立

高等学校改革推進協議会の最終報告を踏まえ、一学年四学級から八学級を適正な学校規模として、

「学校規模の適正化及び学校・学科の適正な配置」

「特色ある学校づくり」

「通学区域の在り方」「再編整備の推進」を柱とする「かごしま活力ある高校づくり計画―基本計画―」を策定しました。そして、十六年度を初年度として、学校規模の適正化と小規模校を発展的に統合する再編整備計画を進めています。八十二校あった公立高校が平成二十二年には再編整備を通して六十五校程度になると見られます。

【川辺学区の状況】

川辺学区の平成十八年度の新入生は六校全ての県立高校で定員割れとなり総数百三十八人の欠員となっています。川辺高校の新入生は百五十四名（加世田高校百六十六名、枕崎高校百四十七名）で本校は四学級の編成にな

りました。来年度の募集定員の動向が注目されるところです。ちなみに、五月一日現在の生徒在籍数は、川辺高五百四十二名、加世田高五百三十七名、薩南工業高五百三十三名となっています。

【活力ある学校づくり】

今、川辺高校は、「生徒一人ひとりが進路目標の達成を通して自己実現を成す学校」を目指し、「学力の獲得」と「豊かな人間性の育成」に力を入れていきます。生徒たちは、神戈陵精神や校訓、校章の教えを日常に生かし、伝統の文武両道の実践や地域に貢献するボランティア活動等に積極的に取り組み、高い評価を得ています。

十七年度は「今、やるべきことをやる」「今を大事にする」など「今に生きる生き方」の実践を追求させながら文武両道を推奨し、心身ともに健康で知・徳・体の偏りのない人格の育成を図り大

きな成果をあげました。十八年度は、更に高い志と確かな目標をもって克己の毎日を送る生徒の育成と支援を教育活動の中心に据えて、保護者・教職員の連携を更に深め、「夢実現へ！明日を拓く」学舎の創造を期してまい

ります。今後とも、同窓会会員の皆様の熱い御指導御声援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、川辺高校同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍、御多幸を御祈念申し上げます。

万古不易！ 母校への思い新たに



教頭 宮 園 秀 昭
(第23回卒)

勤務になり、三十五年ぶりに母校に籍を置くことになりました。よろしくお願ひ申し上げます。

卒業三十周年記念同窓会以来、母校になかなか足を踏み入れる機会がなかったのですが、今回の異動はその機会を与えてくれました。また、母校勤務ということで身の引き締まる日々です。日が経つにつれ、生徒たちの学校生活の姿に自分が重なり、当時苦しみながらがんばり耐え抜いた青春の一コマ一コマが思い

出され、何かこみ上げてくるものがあります。青春時代と変わらない静かなたたずまい、新しく建てられた同窓会館、尚学舎など学習するに十分な環境が整っている中で学べる今の生徒たちは幸せだと思っております。これも同窓会の御支援・御協力の賜物と深く感謝申し上げます。

万古不易、百六年の歴史と伝統は今でも脈々と引き継がれてきております。品格ある川辺高校生として、また「南薩の雄」として勉学に部活動に邁進するよう、そして、古きよきものを大切にいつまでも守りつづけることができよう生徒たちを励まし、母校発展のために、微力ではありますが努力してまいりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、母校同窓会の益々の御発展と同窓会員の皆様の御健勝と御活躍を御祈念申し上げます。

川辺同窓会

五反田 朗浩

(昭和58年卒)

毎年恒例の川辺高校同窓会が平成十七年八月六日、ひろ瀬で盛大に開催されました。男性は、昭和五十八年卒、女性は、平成四年卒業生が担当幹事になり、二回準備委員会を開き、それぞれ役割を分担して本番に臨みました。

幹事は、総会後の懇親会の運営を任されており、会場の確保や当日の出席者を募り多くの出席者の確保に努めることが主な役割となります。

出席者の確保については、同級生に連絡したり、また、川辺高校同窓会評議員等の協力をいただきました。

その甲斐あって当日は、西元辰宏校長、大脇友治教頭、福島尊志教諭を来賓に迎え、昭和二十二年(中四三回卒)卒業生を

賓に迎え、昭和二十二年(中四三回卒)卒業生を

総会では平成十六年度

筆頭に平成十五年卒業生まで総勢百八名の出席をいただき、盛会のうちにとりおこなわれたと感じています。

総会では平成十六年度

の活動報告、決算報告並びに十七年度の事業計画、予算全て承認されました。

引き続き行

われた懇親会では、久しぶりに出会った同窓生や世代を超えた卒業生と川辺高校の思い出や近況を話すなど和気藹々とした宴となりました。幹事を代表して五反田朗浩が和太鼓演奏を舞台披露するなど

懇親会に華を添えました。最後に、次期幹事長を代表して、宇都久彦くんが「また、来年この地で会うことと川辺高校がますます発展するよう同窓

会としても頑張りますよ」と力強い挨拶を行い、幕を閉じました。



福岡同窓会

蔵元 良行

(昭和48年卒)

平成十七年度福岡同窓会が十月十五日、福岡市中央区天神にある福岡国際ホール十六階で、盛大に行われました。今回は、今年の同窓会が開かれるまでを、少し紹介させていただきます。

福岡同窓会は、毎年十月の第二土曜日、福岡国際ホール十六階で開かれます。その二ヶ月前、南谷事務所準備が始まり、主に永見さんの音頭で作業が進みます。昨年の反省会をしながら参加者の平均年齢を上げないために今年三月、又、昨年卒業の若い人々の出席を楽しみにハガキに住所を記入します。

作業がほぼ終了する頃、本田さんが楽しい話をしながら室に入って来ます。夕方案内のハガキを書き終えると、みんな得意げに居酒屋へ。今年は本田さん

んの中国研修旅行の話題とクジラの生態についてうんちくのある話が続きました。同窓会の準備も先輩諸氏の経験豊かなおしゃべりが聞けて楽しい時間が過ごせます。

今年も本田正郎氏の真剣な司会進行で、始まりました。川辺からは前野本部同窓会会長、蘭田副会長、西元校長、長野先生、下之蘭PTA副会長が新幹線に飛び乗って出席して下さいました。なんども校歌斉唱をしているうちに時間となり万歳三唱と記念



撮影でお開きとなりました。

また、毎年ではありませんが恒例「もつなべ屋さ

ん」の二次会がほとんどの人々の参加で同窓会終了後三十分で始まります。この会場は、ちよつと狭いので先輩、後輩入り乱れての楽しい交流会となります。ここでは例年新人君たちの自己紹介があり、未来の抱負を聞くことができ、若いっていい

など大先輩達が思う一時でもあります。福岡同窓会は、これでも終わらず、元気がまだあると思う人々と堀内さんの先導でワイン屋さんへ、ちよつと高価なワインをグイグイと飲み干し十時間ちかい同窓会が終わります。

関西同窓会

恒光(牧角) 順子

(昭和44年卒)

二〇〇五年度 川辺高校

開催されました。

関西同窓会は十一月二十七日(日)ハートンホテル南船場にて三十五名の参加を得て盛大に開催されました。ご来賓として本部同窓会より高田政雄副会長(昭和四十八年卒)、母校から昨年に引続き西元辰宏校長先生、長野守雄先生(昭和四十二年卒)、恩師の松元(佐多)ツル子先生(昭和四十八年度から五十三年度まで国語担当で在籍、現在川辺高校に在籍中)をお迎えし

今回の総会では、昭和二十九年卒の梅橋弘芳さんの議事進行で関西同窓会の会長を四年間務めた池田寛会長から岩屋口大造新会長(昭和三十九年卒)への役員改選が承認されました。前会長退任にあたり、関西同窓会の皆様、本部同窓会や母校の先生方のご協力により、無事大役を務められたことへの感謝の挨拶がありました。西元校長先生からは生



徒の進路目標達成を目指して学力向上、豊かな人間性の育成に取り組んでいる様子が紹介され、特に地域行事への貢献(川辺道路メダカ救出隊や川辺二日市への参加、さらには施設や病院訪問等のボランティア活動)など、教育活動の幅広い領域での成果が紹介されました。続いて高田副会長より、関西同窓会の強い連携、母校を思う同窓生の情熱に触れられ、本部として母校の限らない発展、活性化のために、さらに一層頑張りたいとの感想が述べられました。長野先生には、今回も川辺高校伝統の同窓会の座右の銘をパウチしたたくさんのシオリを戴きました。今回の同窓会のアレンジに多大なご協力を頂き心から感謝致します。恩師の松元先生からは関西の教え子達に会え、心行くまで話が出来、夢のようなひと時が過ごせたとお便りを頂戴し、同窓会事

務局としても関西同窓会に来て戴いたことに大変感謝しております。

懇親会は昭和二十二年卒の鎌田稔さんの乾杯の音頭でにぎやかに行われました。今回、昭和二十九年卒の方が十名参加され、代表の松園滋さんより同期のメンバーの紹介があり、昭和四十年卒の檜根(濱田)厚子さんからは、助産師のご経験からの命の大切さ、生きることの喜びを第五回神戈陵塾で講義された紹介がありました。

今回の同窓会の特徴として、若手の方々に一人ずつ近況報告をして戴いた点です。昭和四十四年卒の神門修さん(空手の世界選手権でスペインで闘ったご経験)、昭和五十年卒の中園幸男さんと原口広さん、昭和五十三年卒の金子(本田)祥子さん、彫刻家で岩屋観音像を制作された向吉浩太郎さん、平成九年の古市真弓さんなどが挨拶され、

皆さんが大きな志を持って頑張っている様子が伝わってきました。昭和三十年卒の宇都勉さんのご自慢の歌も飛び出し、あつという間の懇親会となりました。宴たけなわの中、集合写真撮影後、全員で旧校歌および新校歌を斉唱し、最後に昭和二十六年卒の木原康男さんご来賓の方々を会場からお見送りして今回の関西同窓会は無事終了致しました。

これからも若手への新陳代謝をはかりながら、さらに関西同窓会を盛り上げていきたいと思えますので、同窓会本部母校の先生方のますますのご指導、ご支援をお願いしますとともに母校の益々の発展をお祈り申し上げます。



宮崎同窓会

芝原

正文

(昭和42年卒)

川辺高校同窓会宮崎支部総会は、毎年正月第四日曜日が恒例の開催日になつておりますが、本年は元旦が日曜日であつたこともあり、第五日曜日の一月二十九日に、宮崎市内の宮交エアラインホテル「龍王」竜舌蘭で開催されました。

今年の同窓会で特筆すべきことは、なんといつでも若い学生諸君六名が参加してくれたことでありました。うれしい限りでありました。今後是非参加をお願いしたいと思います。

来賓として母校と同窓会から、西元校長、前野会長、長野事務局長(私と同期)、常磐教諭が御出席くださいました。黒木和也幹事長の司会のもと会が進められ、大坪学会長の挨拶の後、来賓の方から、母校の状況や、

川辺周辺の地域社会の現況や将来の見通しについ

県立川辺高校同窓会宮崎県支部総会



て興味深い御報告を頂きました。泊直十郎幹事の乾杯により開宴し、出席者がそれぞれ近況について報告致しました。特に、山下俊郎先輩は、難病を

患われ、ようやく外出できる状態になられて、参加され、久しぶりの再会を喜び合いました。ただ残念なことは、人一倍優しい男であつた同期生谷口一栄君が肺不全により昨年十一月急逝したとの報があり、寂しい限りでした。冥福を心よりお祈りしたいと思います。

最後にいつものとおり、

校歌を斉唱し、芝原の万歳三唱を持つて再会を期し、閉会いたしました。

来年は、三年に一回の都城市での同窓会です。都城での、再会を楽しみにしたいと思います。

宮崎市周辺は例年になく年末年始の二度にわた

知覧町役場神戈陵会

池田 秋英 (平成2年卒)

平成十八年六月一日、知覧町「やなせ」にて、前野同窓会長を始め西元校長先生、宮園教頭先生、松元先生、長野先生の出席をいただき、総勢四十五名で知覧町役場神戈陵会を開催いたしました。

知覧町役場神戈陵会は、毎年一回開催されます。

会員は昭和三十四年卒から平成十二年卒までの六十七名で構成されており、知覧町役場の職員の約三分の一となつております。当日の前野会長のお話に、知覧町内すべての川

りかつて経験したことのないような積雪がありました。今年は全国的に、冬の天気は荒れ模様で皆様大変御苦労のことと思いますが、同窓生各位の御活躍、御健勝を祈りつつ、宮崎同窓会の報告と致します。

辺高校卒業生の集まりが実現すれば大変素晴らしいことだが、実現に向けて知覧町役場神戈陵会に尽力していただきたいとございました。確かに、県外等におられる卒業生の方々の結束力に比べると弱い気がいたします。地元に残っている我々が最も身近に母校川辺高校や後輩在学生をサポートできる環境にあるわけです。同窓会と協力しながら、地域と一体となつて母校愛を熟成していけたらと思います。

話は変わりますが、現在、知覧町は合併協議が進んでおり、川辺町・額娃町とひとつになる可能性が出てきており、我々神戈陵会も広域のネットワークで結束していかなくてはならないのではと思っております。

特に今日では高校再編

で郡内では笠沙高校が廃校となりました。川辺高校、神戈陵の名を永遠に引き継いでいくためにも今後我々ができることを一生懸命頑張っていかななくてはならないと思っております。

最後に、当日お見えになられた先生方の教え子も参加しており、思い出話に時が経つのを忘れるほど楽しい時間を過ごすことができた平成十七年度幹事として、知覧町役場神戈陵

会を開催できたことをうれしく思います。また参加していただいた方々に感謝いたします。

平成十七年度幹事 (池田・東垂水・安藤)



第26回 川辺町役場神戈陵会

書記会計 網屋 多加幸(昭和52年卒)

平成十八年度川辺町役場神戈陵会並びに懇親会を、平成十八年六月七日川辺町のかじか鳴く万之瀬川沿い「ひろせ」において開催いたしました。

会創設以来、四半世紀を数え、役場の職員構成も町内外の出身者が混じり合う複合職場になりましたが、役場の神戈陵会は、依然として職員の過半数が入っている最大の同窓会で昭和四十年卒から平成十四年卒までの職員一〇九名で構成されております。

総会は、平成十七年度の会長芝原仁(第二十二回昭和四十五年卒)のあいさつを皮切りに、十七年度の事業報告・収支決算報告及び十八年度事業計画・収支予算や知覧町との協力体制など活発な雰囲気の中にも活発に

意見交換されました。

主な事業については、川辺高校への母校愛を示すため、母校への援助や川辺高等学校同窓会への協力、これからの神戈陵会の運営やあり方など、徳丸俊治(昭和五十年第二十七回卒)会員の議事進行のもと全会一致で承認されました。

引き続き行われました懇親会では、同窓会副会長森田剛氏、同じく副会長高田政雄氏や母校の西元辰宏校長、宮園教頭、長野守雄先生、蔵前先生に、お忙しい中出席していただきました。

森田剛同窓会副会長、西元辰宏校長から来賓のあいさつをいただき、「川辺高校に対する地域住民の関心を高めて、地元高校に対する理解を深め、多くのお子さんに川辺高

校を目指していただきたい」「生徒の夢の実現に向けて教職員一丸となつて支援する」など、力強いあいさつをいただきました。く心が動かされました。

また、鶴田康夫助役には顧問として出席いただき、今年の入会者を代表してあいさつをいただきました。

懇親会では、会員の中には先生と同級生の方もおり、思い出話に花が咲き、神戈陵魂の復活を夢見て、時間を忘れて熱く語る楽しい会合となりました。

また、今年も長野守雄先生の手作りの葉をいただき、あまりの人気のよさに品薄となり手に入らない方もおられるほどでありました。

最後の締めには全員が立ち上がり、青春の一ページを飾った在りし日に帰って、お互いの肩を組み母校の校歌を力の限り歌い、盛会のうちに夜も更け終了いたしました。

私たち、川辺町役場神
 戈陵会は、母校の足下
 ある最も身近な応援団
 として有水秀男（昭和四
 十六年第二十三回卒）会
 長を中心に会員一致団
 結して、これからも力
 強く川辺高校をバック
 アップしていきますの
 で、よろしくお願い
 いたします。



川辺町役場神戈陵会事務局
 川辺町平山三三三四番地
 TEL〇九三—五六—一一一
 会長 有水秀男（昭和四十六年卒）
 副会長 内村 光二（昭和四十七年卒）
 有蘭満代（昭和四十八年卒）
 顧問 鶴田康夫（昭和四十年卒）
 委員

五十代委員 大藪 誠（昭和四十八年卒）
 砂走 明美（昭和四十八年卒）
 四十代委員 今村 博文（昭和五十八年卒）
 安山 久美子（昭和五十八年卒）
 三十代委員 原口 修一（昭和六十年卒）
 野中 浩洋（昭和六十年卒）
 二十代委員 原 健仁（平成七年卒）
 内菌 淳子（平成八年卒）
 網屋多加幸（昭和五十二年卒）
 書記会計 川野 たみ子（昭和四十七年卒）
 会計監査 久松 広充（昭和五十二年卒）



東京同窓会

川平悦郎
 （昭和47年卒）

本年度の東京同窓会は、三十回目の節目となる記念すべき会ということ、本田雄郎会長（昭和二十七年卒）の意気込みも厚く、本会の第一回開催施設のアルカディア市ヶ谷（私学会館）で六月二十四日（土）開催されました。来賓として、本部同窓会の前野政美会長、母校の西元辰宏校長、獅子目博文元校長、母校教諭の長野守雄氏（昭和四十二年卒）、恩師の松元尚大先生ご夫妻、池田孝先生、黒松武蔵先生、森洋三先生、野村信子先生、さらに薩南工業高等学校関東同窓会、関東さつま川辺会、関東知覧会、奄美旅行センター様等多数の方々をお迎えすることができました。

本会の当日の運営は、三代の卒年次を中心に行

っております。平成十八年度の今年は、昭和二十八年、同三十八年、同四十八年卒の皆さんが一月から数回の話し合いを経て準備すると同時に担当年次として同期の皆さんへの参加拡大の呼びかけ等をするなど頑張っていた。総勢二五七名の参加によって盛大に実施することができました。

東京同窓会では、十年前から総会や懇親会に先立ち特別講演を実施しています。年一回の同窓の集まりを懇親のみで過ごすのではなく、さまざまな分野でご活躍されている諸先輩方を中心に、ご自身の活動や体験談等の講話を拝聴する時間を設けて好評を得ております。平成八年度の安田耕作氏（昭和二十二年卒）の演題「油とダイエット」を



スタートに特別講演を積み重ね、今年度は一昨年の前橋竹之氏(昭和二十五年卒)の「『三角兵舎の月』とその時代」に引き続き、ご兄弟で鹿児島

市在住の前橋松造氏(昭和二十五年卒)をお招きして「双子の競作『疎開船金十丸と三角兵舎』」をテーマに講演していただきました。

講演後の総会は、物故者への黙祷に始まり、会務報告・会計報告等を協議し、懇親会となりました。今年度は三十周年記念ということもあって、懇親会を二部構成とし、一部は往年の人気歌手で今も現役とおっしゃる若々しい青木光一氏による歌謡ショーに耳を傾けました。二部では会長挨拶や西元校長先生のご挨拶の後、長年にわたって会の発展にご尽力いただいた川野重任氏(昭和四年卒)、室屋数盛氏(昭和十年卒)、川口幹夫氏・白石晃三氏(昭和十九年卒)、中釜作治氏(昭和二十四年卒)と会発足以来、事務局をバックアップしていただいている(株)盈進社様に感謝状を進呈後、萩原辰馬氏(昭和三十五年卒)による祝謡「鶴亀」、泊昭八郎氏(昭和三十四年卒)による「居合道演武」が披露されて、川辺から直送した焼酎やツケアゲ、とりさしなどを堪能しながら

から同窓との懇親会へと入っていききました。今年度は、西元校長先生のご尽力もあって、新卒七名を含む平成十五年以降の卒業生が十名参加しました。若い同窓生の参加があったこともあって、例年以上に懇親会が大いに盛り上がり、楽しいときは瞬く間に過ぎ、新旧校歌を全員で合唱し、来年の再会を期して解散しました。



なお、東京同窓会では、昨年は総会以外に、八月に千葉県で開催されたインターハイ出場の高橋なぎなた部の応援や激励会、卒業式前に行われる同窓会人会式時に卒業生へ記念品の贈呈、会報誌「神戈陵二十九号」の発行(十一月)等の活動をおこないました。

南さつま地区神戈陵会設立

事務局長 木場 正英

(昭和48年卒)

南さつま地区神戈陵会設立総会が平成十八年七月十五日(日)南さつま市内のKプラザで開かれました。これは、休会中でありました加世田地区同窓会に所属されておられた旧制中学校の先輩上東三郎氏の後押しで、昨年十一月七日に誕生した一市四町(加世田市・金峰町・大浦町・笠沙町・坊津町)の合併による南さつま市の地区をまとめる良い機会となりました。来賓として、前野政美同窓会長、西元辰宏校長、鮫島宏規同窓会副会長兼PTA会長、宮園秀昭教頭、長野守雄教諭(同窓会事務局長)、山口久信教諭、蔵前勇教諭、板坂金信同窓会会計さらに福岡県より南谷知成福岡同窓会長のご出席も頂き、新会員二十六名と合わせ

総勢三十五名でした。上東書三設立準備委員会委員長のあいさつに始まり、会則、組織の承認、新役員の承認、そして今後の運営について協議、承認された後、前野同窓会長より同窓会活動状況を、西元校長より学校の現況を、南谷福岡同窓会長より福岡同窓会の設立までの経過や現況をお話し頂きました。諸氏のお話しを伺い、同窓会組織の維持発展は会員が結束する必要性があることと、在学生の割合が南さつま市地区が最高の割合である事を知り、今後組織を拡大させる要素を持っている事を実感致しました。また、上東三郎先輩より、役員の職責について、アドバイスを頂き、改めて責任を認識致しました。総会後は、同窓の今村

勝徳氏の経営するブルドッグにて懇親会を開き、なごやかな雰囲気の中、それぞれの紹介や思い出等語り合い盛会のうちに終了しました。新組織の準備から総会終了までの間役員の結束と、年一回以上の交流の場が必要であることを実感しました。



陵 寿 会

世話人 大倉野 貞俊
(昭和25年卒)

陵寿会の皆様

拝啓 春たけなわの今日この頃、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

去る日の陵寿会には、お元気なお姿で大勢のご出席いただき誠に有難うございました。

恒例ではございますが、遠く鹿児島からご臨席の前野同窓会長、大脇教頭、前田事務局長、長野教諭には、美味しい故郷の味をどっさりいただきました。そして、苦しい環境に置かれた母校が必死に活動している状況や市町村合併の動向の話聞かせていただきました。

昨年から開催している午前中の「語ろう会」には、四名のご来賓も交えた二十人のメンバーが一同に会してけんけんごうごうの論を闘わせました。テーマは「故郷活性化と教育問題」とし、概要は以下の通りでした。議長

は安田耕作氏にお願いしました。

①合併問題は少子高齢化で過疎化する地方を活性化するためだが、それは大義名分であり、逆に尚一層の過疎化を進める結果にしかない。行政費の節約にはなるが、高齢者には益々過酷な時代になって行く。

②昨年度の川辺高校には定員以上の応募者があったが、今年の南薩地区にある六高校は総て定員割れに追い込まれてしまった。既に笠沙高校は廃校が決まり、今年は募集していない。

③川辺高校の生き残る道は、中高一貫校とか男子単独校とかの特色を出すしかないのでは、という意見に対しては、以下の反論があった。その前提として、学区制を解体しなければならぬが、これが難問

である。男子単独高校とした場合、女子はどこへ行けというのか。それが問題だ。

④結論として、兎に角、学力のレベルを上げること。先生方に努力をお願いすること。

生徒たちに意欲を、町民と保護者にもその危機意識を持つてもらうこと。

以上

総会の議事も終わり、長野守雄教諭の乾杯で懇親宴に入りました。お土産の芋焼酎やタンカンを、また川辺から取り寄せたトリサシや牛サシを皆さんで喜んで頬張りました。年々盛会ですが、今年は出席者も多くなり、私自身世話人でありながら、一年一回の歓談に酔いしれてしまいました。

宴たけなわの頃、恒例の「関東さつま南の会」の綺麗どころの華やかな踊りが始まりました。会員の皆さんも輪に入って楽しく踊りました。関東さつま南の会連中の皆様に心から厚く御礼申し上げます。



げます。

ここに記念の集合写真を同封いたします。また、来年もお元氣でお出で下さい。

末筆ながら、益々のご健勝をお祈り申し上げます。敬具

20川辺中・高女入学 26川辺高校卒同窓会

発起人代表
岩屋口 和清

拝啓、温暖化の影響でしようか、遅れていた紅葉もようやく麓まで降りてきました。皆様には、健やかに過ごしのことと存じます。

いする方もたくさんおられました。胸の名札をみて相手を確認し、久しぶりの邂逅を喜び合う、同窓会ならではの風景が、あちこちで見られました。

先日の鹿児島での同窓会には、四十六人もの多くの方の出席をいただき、ほんとうに有難うございました。発起人一同心より感謝・感激いたしております。両日とも願ってもない好天気に恵まれ(快晴、暑からず、寒からず、空気清澄)、ホテルからの錦江湾・桜島の眺望はまさに「well view」でした。三年前の京都でも好天で、二十六年ぶりの(タクシ一の運転手談)見事な紅葉を、大原(三千院)、修学院離宮、古刹で堪能させていただきました。皆さんの平生の心がけがよいので、天の配剤かと思っております。

まず「ロビー外交」から同窓会は始まったようです。総会ではまず、「亡師・亡友」を偲びご冥福を祈り黙祷を捧げました。自己紹介も終わり、盃を酌み交わすうちに、昔日の少年・少女の面影が蘇ってきました。気持ちはずっかり「あのころ」にもどりました。残念ながら参加できなかった、K君、N君、O君、T君、S君……多くの友人の懐かしい顔が思い浮かんできます。二次会にはほとんどが参加され、大変な熱気のなかで、歌や踊りや話が弾み時間延長となりました。(パーティ・ルームは一人二千円のところ、セルフサービスで

無料になりました) 翌十六日は二十四人の参加。岩屋公園では「やすらぎ観音」建立時の経緯やご苦労など木原君より拝聴。いよいよ母校・川辺高校へ到着。早速、神戈陵の中腹にある「亡師・亡友の碑」の前に直行して黙祷。丘の頂上に登り(裾についた藪じらみには閉口しました)学校全体を俯瞰。昔を偲ぶよすがとなる建物はひとつもなく、旧講堂前の梅檀の巨木がそのままでした。学校の概況を西元校長先生より(前夜ホテルでもお会いしています)承り、同窓会資料展示室を見学して母校を後にしました。(同窓会係りの長野先生には、わざわざ資料まで準備してくださる大変お世話になりました。)卒業後初めての母校訪問の方も何人かおられました。また頂上まで登ったのは、殆ど初めてということでした。それだけに感慨深いものがあったようです。「神戈陵」

2005・川辺高校26年卒同窓会総会



はもう少し高かったように思うのだが、というのが皆さんの感想でした。知覧では、全員が揃って食事が出来たのは幸運でした。本物の知覧茶はやはりおいしいと大変好評。自由時間では、「特

攻平和会館」に入館したり、周辺の平和観音や三角兵舎を散策したりして帰路につく。帰りのバスの中は一段と賑やか。知覧峠からの景色も素晴らしいものでした。ホテルに到着。惜別の情止み

難く、名残を惜しみ再会を約して解散となりました。最後になりましたが、木原君には同窓会名簿やアドバイスなどいろいろいただき、大変助かりました。謝詞。次の同窓会には、現在のところ決まっています。一応、関東地区にご検討方お願いはしてあります。自分たちでやっ

てもよいというところがありましたら、どうぞご連絡ください。是非、また皆様とお会いしたいものと、切に念じております。いよいよ師走です。向寒の砌、くれぐれもご自愛ください。

敬具

「あのころ」は手許にあった「戦後50年」(毎日新聞社)より抜粋したものです。

神ヶ丘に立つと、校歌の(三) 番を思い出します。記してみました。

(乞許、独断と偏見)

星の光は変らねど

人改まる丘の上

さらば我が友草に寝て

常磐の森の風に聞け

天籟遠く先哲の

我にもの言う声あらん

ものには必ず

終わりがある。

陣が陵二七会総会終宴報告

中禮 俊則 (二〇〇六年八月記)

昭和二十七年に県立川辺高校を卒業してから五十三年を経て、ようやく宴は終わった。全国規模の総会を開催すること十三回、わが演劇部の輝かしい歴史の中でひととき印象深かった演題のひとつ「修善寺物語」を偲んで第一回の総会は修善寺で開かれた。社会の波にもまれて職業に家庭に専心して往時を振り返るゆとりがなかった同期の卒業生たちが、ようやく、埋もれていた青春の回想に歓喜したのである。このときから数えても二十数年の歳月が流れていた。

この間、郷里の鹿児島・東京・京都・博多、奈良などの名所旧跡を経巡りながらそれぞれの拠点に居を構えた有志たちが、

工夫を凝らして総会を企画し運営した。その縁の下、献身的な奉仕にはせまじい仲間の情熱はすばらしいものがあつた。いかんせん今や時は容赦なく過ぎてメンバーは古希を超えて老いた。意欲はあつてもこれ以上全国的な総会を推進するだけのエネルギーは消耗し尽くしたのである。

振り返ってみれば、二七会の主体は戦後海外からの引揚者と郷里出身の俊才たちの混成部隊が生み出した特異な世代であつた。さらに戦後の教育改革の渦中で旧制中学と新制高校の合体による新たなエネルギーが生み出され、さらには男女併学から共学へと驚天動地の変革の洗礼を受けて社会に飛び出すことになった。言わば、唐芋くさいが新種の「宇宙人」たちの誕

生にも似た印象がある。それからの長い歳月はメンバーの一人ひとりの脳裡に刻まれていくが、それをひとつの言葉で総括する表現は見つからない。

古希を二つ三つ過ぎて、もまだ人生の先が見えきつたわけではなく、個々に見ればまだまだ活力を失っていない世代である。

たとえば、危うく大阪府知事に選ばれそうになった鰐坂真などのケースを見てわかるように、機運に恵まれればまだひと花咲かせるだけの情熱を持つものが潜んでいるやも知れぬ。郷里のほうには産業・教育界の分野でまだ実力者も残っている。しかし今からさらに二年の歳月を費やして全国津々浦々に全員集合の掛け声を掛けて、総会運営の一切を取り仕切るのは大事業だ。

「まあこの辺でいいか」という感懐は自然の流れになったのである。

さて最後の総会となつ

た今回の舞台と企画のあらましを紹介しておこう。総会参加者は男性三十二名、女性二十一名の合計五十三名であった。品川駅前のホテルパシフィックの宿泊と宴会、翌日の

湘南カントリーでの有志によるゴルフはこの界限の顔役・ロータリアン本田瑞穂が采配を振るい、ひと汗もふた汗もかいた伊豆箱根のバス観光旅行・湯河原厚生年金会館の宿泊と宴会は女性幹事船津栄子・園田和子・猪谷明子の三女史が綿密に想を練って、完璧に実行した。全体の事務局と議事進行、それに会計、これが肝心の松山国治の差配に遺漏はなかった。会計全般は自衛隊OB会の経理に長年実務経験を重ねた桑畑繁貞が当たり、これも万全・完璧。すべての局面でこれらのスタッフは相互の支援を惜しまず、さらに適宜随時に各担当を支援したのが君野満明・

岡村和則・峰元研二の面々であった。郷里の側からいつものことながら、特に上床光弘・山元巖の両氏から種々助言をいただいた。

最後に特筆しておきたいのは、総会最後の湯河原での有志によるカラオケ大会。天候に恵まれて荘厳な霊峰富士の姿に感動した旅行組二十九名は早々と湯河原の温泉と大涌谷の硫黄の霊気を浴びて元氣回復していたせいか、くたびれ果てたゴルフ組からの落ち武者七名は完全に圧倒された。司会者は演芸部長有蘭重夫。男性陣は何よりもその恰幅のよさとスマートさで往年の流行歌手かと見まがうばかりの本田雄郎を先頭にかつての音楽部や演劇部の役者たち。女性陣はさすがにみな情緒たつぷりに歌いこんで男性陣を圧倒していたが、中でもプロはだしの歌唱力を披露したのが堂園かおる女史。一瞬全員が息を止めて聞き入ったほどの本格派であった。

最後に全員で歌った「青い山脈」は、アンコールで上気した万年青年鰐坂真のリードで、高音部も見事に歌いこなし、すばらしい幕切れであった。

大物役者の顔が目立った。もう二度とアンコールの拍手はわかない。

（追記）翌平成十八年五月二十六日午前九時、全員が湯河原温泉を後にして思い思いに散会した時分に、今回の総会を含めた東京地区の会合のすべてのイベントに情熱を傾けて、最後の総会の一切の行事が無事終焉した様を見届けるように病氣療養中であつた大迫ゆみ子さんが亡くなった。（合掌）

本職の女優は一人だが男優には悪役にふさわしい

五十周年記念同窓会

（昭和三十五年卒）板坂 金信



卒業後半世紀の時が流れた。時間の大きさと、自分を含め、世の中の変わり様に驚くばかりである。

路を歩いてきた二百三十余名。すでに亡くなった仲間も二十五名に及ぶことを思うと時の流れの大きさを実感する。

昭和三十年三月卒業。以来、それぞれの人生航

戦中、戦後の混乱も少しずつ収まり、日本も高



度経済政策がとられ、経済が大きく発展する始まりの頃卒業。体育大会の仮装行列に「造船疑獄」がとりあげられたのも、そのことを示している。去る十月四日、卒後五十周年記念同窓会開催。

まず母校を訪れ、現況の説明を受ける。母校の返遷の跡を知る。続いて亡師亡友の碑へ。校庭に立ち、体育館前のせんだんの木を見て、当時の面影を思い出しなつかしむ。後、鹿児島市のホテル

へ移動し交流会。卒業後初めて再会する友もいて、近況報告をして、それぞれ歩いてきた道の大きさを確かめ合い、元気で会えたことを喜び合った。終わりに校歌を斉唱して散会した。



私共、昭和三十六年の卒業生は在学時(一九六〇年)に、創立六十周年を迎え、記念行事として、プールが出来ました。卒業以来度々三六同窓会を開きました。平成十三年の同窓会で、還暦同窓会を東京九段会館で開催することに決めて、平成十五年二月に六十余名が東京に集い、盛り上がりしました。二年後の福岡開催の決定を受けまして、福岡同窓会長でもある南谷さんを中心に県内に住む九名が世話人となり、残暑厳しい九月十日、恩師三名と、七十余名の御参加をいただいたて、懐かしい校歌で盛り上がり、次回郷里開催時に、元気で再会することを約束しました。

一泊して、半日、市内(ヤフードーム)と国立

三六同窓会 (福岡同窓会)

吉田 京子

(昭和36年卒)

博物館開館を一ヶ月後に控えた太宰府参拝の後に福岡空港、博多駅とそれぞれ遠来の級友を送り届けて、解散となりました。福岡民謡炭鉋節の替え歌で様子を披露します。



校歌を唄う



一 九段坂から靖国を ヨイヨイ

参拝しました還暦の
あの日の約束「福岡へ」

集まりました 博多によ

さのよいよい

一 そろうた そろうたよ

皆そろた ヨイヨイ

みんな元気で博多によ

先生 ヨカニセ ヨカオゴジヨ

笑顔揃って三六会

一 あなた一体全体どこの方 ヨイヨイ

顔は川辺(川畑、川内)

目は勝目

足は霜出(清水)

手は高田(神殿)

心 阿多 阿多(小野、小野)

気は知覧 さのよいよい

一 迷わず出ました 君の名が ヨイヨイ

可愛い面影残します

元のニキビの十八に

返してくれます三六会

さのよいよい

一 この次どこかで会える日を ヨイヨイ

心待ち待ち 三六会

足腰きたえてドモをせず

心豊かに暮らしましょう

さのよいよい

ミニコンサートと記念特別授業で交流 川辺高校三十九年卒還暦同窓会

副実行委員長 前田 浩

私たち昭和三十九年卒業生の還暦同窓会は平成十八年六月十日(土)に母校川辺高等学校訪問で始まりしました。母校の正面玄関に設けられた受付で、卒業以来そうちよく

先生より御挨拶と川辺高校の現況説明をいただき、在校生の文武両道にわたる一生懸命な取り組みや、元気に活躍している様子をお聞きすることができました。

ちよく会うこともできなかったなつかしい顔を見つつけ、受付もそこそこに互いの再会を喜び、近況を語り合ううちに、西元校長先生からミニコンサートのご案内がありました。音楽堂で音楽部吹奏楽団の後輩のみなさんが校歌の演奏で迎えてくれました。

引き続き恩師の先生方四名による授業です。はじめに、人文地理の皮籠石三郎先生、そして数学(幾何学)の大山邦博先生、つづいて、体育の松本尚大先生、物理の山口忠雄先生に教壇に立つていただきました。

途中から演奏に合わせ、一緒に校歌を歌い、皆、一気に川辺高校で過ごした青春時代が蘇り感激した様子でした。その他数曲の演奏を聴きながら、およそ二十分くらい

皮籠石先生は、日本と世界の人口動態分析を通して、現在大変大きな社会問題になっている、少子化対策についてお話しくださいました。

でしたが交流しました。次は特別授業です。はじめに現校長の西元校長

大山先生は、スポナツチ数列や黄金比の解説を通して、六十はすばらしい不思議な数であり、六十で一応終了し次の段階



への新しい循環の始まりであるとお話しをしてくださり、還暦を迎えた私たちにとつてのエールとなりました。

松本先生からは、身体と各器官のお話しや体育心理学者の提唱している二十一世紀のキーワードの紹介を通して、私たち

が日常どのような生活をすればよいかという健康のお話しをいただきました。山口先生は、思い出の小さな秤をお持ちになられて、一円硬貨から順に硬貨の重さを計りながら、私たちが日常やり過ごしているか、切り捨ててしまっているようなことにあらためて気づかせてください、その有用性を説いていただいたように思いました。また、日常生活において健康な生活を送るための留意点もお話ししてくださいました。

どの先生のお話しも、卒業以来中断しておりまして各教科の続編を授業していただいたような感じがします。還暦という人生の節目の時に、これからの第二の人生について多くの示唆を与えていただきました。

そして、いよいよ会場を移しての記念パーティーです。会場は広瀬橋近くの「ふく美」で行いました。私たち同期生は、終戦の年の生まれで、他

の学年より一クラス少ない百八十名余りでありましたが、うち五十名が参加しました。記念パーティーは佐多光子さんの司会進行で開会し、まず記念撮影、山口和喜実行委員長挨拶に続いて、黙祷、校歌斉唱、中迎勇策幹事長から事業報告・収支報告、松本尚大先生に恩師代表挨拶をいただき、川辺高等学校西元辰宏校長先生の乾杯の音頭で開宴いたしました。宴もたけなわになったところ同窓生近況報告があり、クラスごとにステージに立ち、それぞれの卒業後が振り返られ、また、還暦を迎えた今後の夢が聞かれ、また授業をしていただきました。そして、昼間特別授業をした恩師の先生方に再び御登壇をお願いしまして、恩師として、人生の大先輩として、還暦を迎えた今、私たちが今後の人生を如何に過ごしたらよいのか、ということについて御自分の体験を交えながらお話しいただきました。

卒業後初めて会う人もあり、名残は尽きないままやむなく時間切れとなり、次回は関西で開催することを決め、中島厚一君の万歳三唱と川路磯子さんの終宴のことばで記念パーティーの幕を閉じました。

二次会はカラオケです。勇百合子さんの司会と名演技で大いに盛り上がり、それぞれ自慢ののどを披露しました。宿泊は清水岩屋公園のキャンプ場にとり、思い出や近況を語り合い、話題は教育問題や社会問題へと発展し、夜の更けるのも忘れてしまいそうでした。翌朝は美しい公園内の散策をたのしみ、ゴルフと観光ツアアの二つの計画があり、古里のなつかしさと新しい発見とを胸に刻みながら、互いの健康と再会を約束して帰路に着きました。

私たち昭和三十九年卒業生の今回の同窓会は記念すべき還暦同窓会で、皆どの顔も川辺高校で学

鹿児島同窓会

木原 彬成
(昭和36年卒)

んだ高校三年間にタイムスリップし、感激のうちに無事終了でき満足げに見えました。これもひとえに、川辺高等学校の西元校長先生はじめ関係の

諸先生方のご協力のお陰と感謝しています。最後に川辺高校のますますの発展をお祈りしつつ、報告といたします。

「あ、悠遠の陽に映えて!!」

平成十八年度年度の鹿児島同窓会神戈陵のつどいが七月二十九日(土)にジェイドガーデンパレスで九十二名参加のもとに開催されました。ご来賓として川辺同窓会前野政美会長、母校から西元辰宏校長、宮園秀昭教頭、長野守雄、山口久信、蔵前勇教諭のご参加をいただきました。昨年度から総会を省いて、つどい案内状と同時に鹿児島同窓会会報を送付して会務報告・決算報告と監査報告平成十八年・十九年度の役員の承認を行いました。

昨年度より受付と進行も卒業年度別順に行っています。今回は、昭和二十八卒と昭和三十八卒の方々にお願いいたしました。岡本守・黒松武蔵幹事を中心につどいの会を運営していただきました。総会に新鮮さをとの提案で、今年度は記念講演を取り入れました。定年退職後徒歩で日本一周をした昭和二十六年卒の池田義文さんに、「日本一周と神戈陵精神」と題して、十五分間スピーチをしていただきました。東洋一さんの開会のことばがあり、亡師・亡友

に黙祷を行いました。そして、池田弘鹿児島同窓会長が友人の大切さについて思い出話と同窓会は愛と明日への希望の光であるとの挨拶しました。祝詞として、前野政美同窓会会長と西元辰宏校長よりごあいさつを頂きました。昭和三十八年卒の黒松武蔵さんの力強い乾杯の発声により懇親会が始まりました。参加者の方々は面々の神戈陵時代の思い出に話を弾ませたり旧交を深めたりして、その姿は青春時代に戻ったようでした。同級生、先輩、後輩と入れ混じって酒盃を酌み交わす姿は、鹿児島同窓会一致団結の姿であるとうれしく思いました。恒例の三十五年卒柚木清紀さんの股旅ものやカラオケで多くの方々が自慢ののどを披露して最高に盛り上がりました。宴たけなわの中、旧制中学校校歌・新制高校校歌を全員で声高らかに斉唱の後、当番幹事の昭和二十八卒大山保隆さんの

音頭で万歳三唱を行ない神戈陵のつどい(懇親会)の幕を閉じました。来賓として出席していただいた、前野同窓会会長他の皆さん本当にありがとうございました。盛

会のうちに鹿児島同窓会神戈陵のつどい(懇親会)を終了できましたことを、感謝申し上げます。最後に母校のますますのご発展を祈念いたします。



一 平成十八年度「同窓会育英奨学生」決定の報告

川辺高校同窓会は、母校が社会に有為な人材の育成を果たしつつ輝かしい発展を続けていくことを念願し様々な支援を行っている。

事務局より報告

事務局長 長野 守雄

平成十六年度から、地域の優れた資質を有する生徒の入学が一段と促進されることを願い、育英奨学金制度を発足し、月額一万円を給付し、

川辺高等学校の英才育成と人材確保に寄与している。

平成十八年度「同窓会育英奨学生」は左記の通り。

◇一年生

大藪 優 (川辺中出身)
岡元 絵理 (青戸中出身)

◇二年生

志風 早紀 (加世田中出身)
真茅 知美 (加世田中出身)

◇三年生

古市 梨沙 (川辺中出身)
櫛下町由樹 (知覧中出身)

一 各地区・各年度

同窓会の開催

恒例の各地区同窓会は昨年度も盛会の内に終了した。熊本同窓会が眠ったままであるのは寂しい限りである。東海地区は

昨年はモータレース等の関係で開催できなかったのは残念であったが、今年例年通り一〇月開催予定である。一〇年間眠

っていた加世田同窓会は今年の七月十五日(土)にさつま地区神戈陵会と

して発足した。昭和三六年卒の上東書三氏を会長に、昭和四八年卒の西浩二氏と木場正英氏の職場である加世田自動車学校内に事務局が設置された。

各年度の同窓会も活発で、同窓会報や川辺高校概況報告等をお送りして

援助した。皆で学校を訪問した同期会もあった。

昭和三九年卒の還暦同窓会のグループ(四九人)は六月十日(土)に恩師

や在校生と母校で交流した。四二年ぶりに音楽部による校歌で歓迎され、

大山先生の「黄金比」の授業を受けるなどして、人生の新しいスタートを祝福した。

前野同窓会長などの卒業後五〇周年同窓会は昨年の一〇月四日(火)鹿児島県の「サンロイヤルホテル」で開催された。

川辺高校二八会は一七月七日(火)薩摩川内市の市比野温泉「ホテルグリーンヒル」で開催され、

明るく日は思い出の地川辺地方を回り、母校も訪問した。そよ風や雲のた

たずまいに青春時代を思い起こされた事だろう。

昭和二六年卒の岩屋口和清・椎原耕・木原康男氏等のグループもバスツアーで母校を訪問、神戈

陵奨学金への寄付もしていただいた。

昭和二七年卒の松山國治氏のグループも五月下旬に同期会を開催した。

その時が全員で持ち回りの最後の同期会になるとのことであるが、

本当であれば残念でならない。出来ることなら、まだまだ先輩方には同期会を続けて欲しい。

三 援助

① 東京同窓会より卒業生全員へボールペンをいただいている。

② なぎなた部は大阪での春の大会で、関西同窓会に援助金をいただいている。

③ 前野政美同窓会長や菊野光郎前会長からは、各種援助金や学校職員

への物心両面に渡る援助をいただいている。

④ 卒業式や前日の同窓会入会式に、各地区同窓会よりメッセージをいただいている。



川 辺 高 等 学 校 同 窓 会
平成17年度 収支決算書

収入の部

(H17.8.1~H18.7.31)

費 目	予算額	補正額	予算現額	収入済額	増 減	備 考
入 会 金	200,000		200,000	154,000	△46,000	1,000×154
会 費	396,000		396,000	369,000	0	2,000×198
総 会 収 入	400,000		400,000	412,000	12,500	参加費
繰 越 金	332,747		332,747	332,747	0	
受 取 利 息	0		0	12	12	定期取崩、CD寄付
繰 入 金	1,040,253	157,000	1,197,253	1,445,300	248,047	
計	2,369,000	157,000	2,256,000	2,740,559	214,559	

支出の部

費 目	予算額	補正額	予算現額	支出済額	不用額	備 考
総 会 費	400,000	12,000	412,000	411,930	70	
需 用 費	100,000	△3,000	70,000	65,100	4,900	会報印刷代
通 信 費	10,000	5,000	15,000	14,700	300	切手、はがき代
慶 弔 費	100,000	0	100,000	99,144	856	香典、花輪、転退者
旅 費	600,000	10,000	610,000	607,280	2,720	関西、福岡、東京他
負 担 金	270,000	30,000	240,000	240,000	0	各地区同窓会へ
高 振 費	760,000	△30,000	790,000	786,833	3,167	奨学金、中高連絡会
雑 費	100,000	160,000	260,000	251,144	8,856	各地への土産代
予 備 費	29,000	0	29,000	0	29,000	
計	2,369,000	157,000	2,526,000	2,476,131	49,869	

収入済額 - 支出済額 =
2,740,559 - 2,476,131 = 264,428円 残額は来年度への繰越金

特別基金

平成17年7月31日現在合計 7,603,428円

内 訳	利率	預入
4,099,592 鹿児島銀行	0.03	14.8. 6
3,504,210 鹿児島相互信用	0.05	16.8.22

平成17年度 収支予算書(案)

収入の部

(H18.8.1~H19.7.31)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	160,000	200,000	40,000	新入生 1,000×160
会 費	378,000	396,000	18,000	卒業生 2,000×189
総 会 収 入	400,000	400,000	0	
繰 越 金	264,428	332,747	68,319	
受 取 利 息	1,400,000	1,040,253	359,747	定期取崩 140万、他
繰 入 金	12	0	12	利息
計	2,602,440	2,369,000	233,440	

支出の部

費 目	予算額	補正額	予算現額	備 考
総 会 費	400,000	400,000	0	同窓会総会
需 用 費	100,000	100,000	0	同窓会報印刷代
通 信 費	20,000	10,000	10,000	評議員、他
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職員へ記念品代、他
旅 費	600,000	600,000	0	東京、東海、関西、福岡、宮崎他
負 担 金	300,000	270,000	30,000	各地区同窓会へ
高 振 費	920,000	760,000	160,000	講師謝礼10万、中高連絡会10万、奨学金72万
雑 費	100,000	90,000	10,000	各地区同窓会へ焼酎、土産代、他
予 備 費	62,440	29,000	33,440	
計	2,602,440	2,369,000	233,440	

各地区同窓会連絡先										事務局 川辺高校 〒897-0221 川辺郡川辺町田部田4150		TEL 0993-56-1151 FAX 0993-56-1152
川 同 窓 会	会 副											